

第12期東京都生涯学習審議会 第3回全体会

次 第

日時：令和4年3月30日（水曜日）

午後5時から午後7時まで

会場：都庁第二本庁舎31階特別会議室22

1 開会

2 議事

「これからの地域コミュニティづくりにおける都立学校の在り方」
に関する意見交換

3 今後の予定

4 閉会

【配布資料】

資料 第12期東京都生涯学習審議会第3回全体会 審議資料

参考資料 『未来の東京』戦略 version up 2022

第12期東京都生涯学習審議会委員

(任期：令和4年1月13日から令和6年1月12日まで)

氏名	所属
エビハラ シュウコ 海老原 周子	一般社団法人kuriya 代表理事
サイ ヒロミ 笹井 宏益	玉川大学 特任教授
サワオカ シノ 澤岡 詩野	公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員
シンダ マナミ 志々田 まなみ	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官
タケダ カズヒロ 竹田 和広	一般社団法人ウィルドア 共同代表理事
ノグチ アキナ 野口 晃菜	株式会社LITALICO研究所 所長
ヒロシ タクジ 広石 拓司	株式会社エンパブリック 代表取締役
フクモト ミチヨ 福本 みちよ	東京学芸大学教職大学院 教授
マツヤマ アキ 松山 亜紀	株式会社セールスフォースドットコム 社会貢献部門 ディレクター
ヨコタ ミホ 横田 美保	特定NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J) 事務局長

第12期東京都生涯学習審議会

第3回全体会 審議資料

令和4年3月30日

1 開会

2 議事

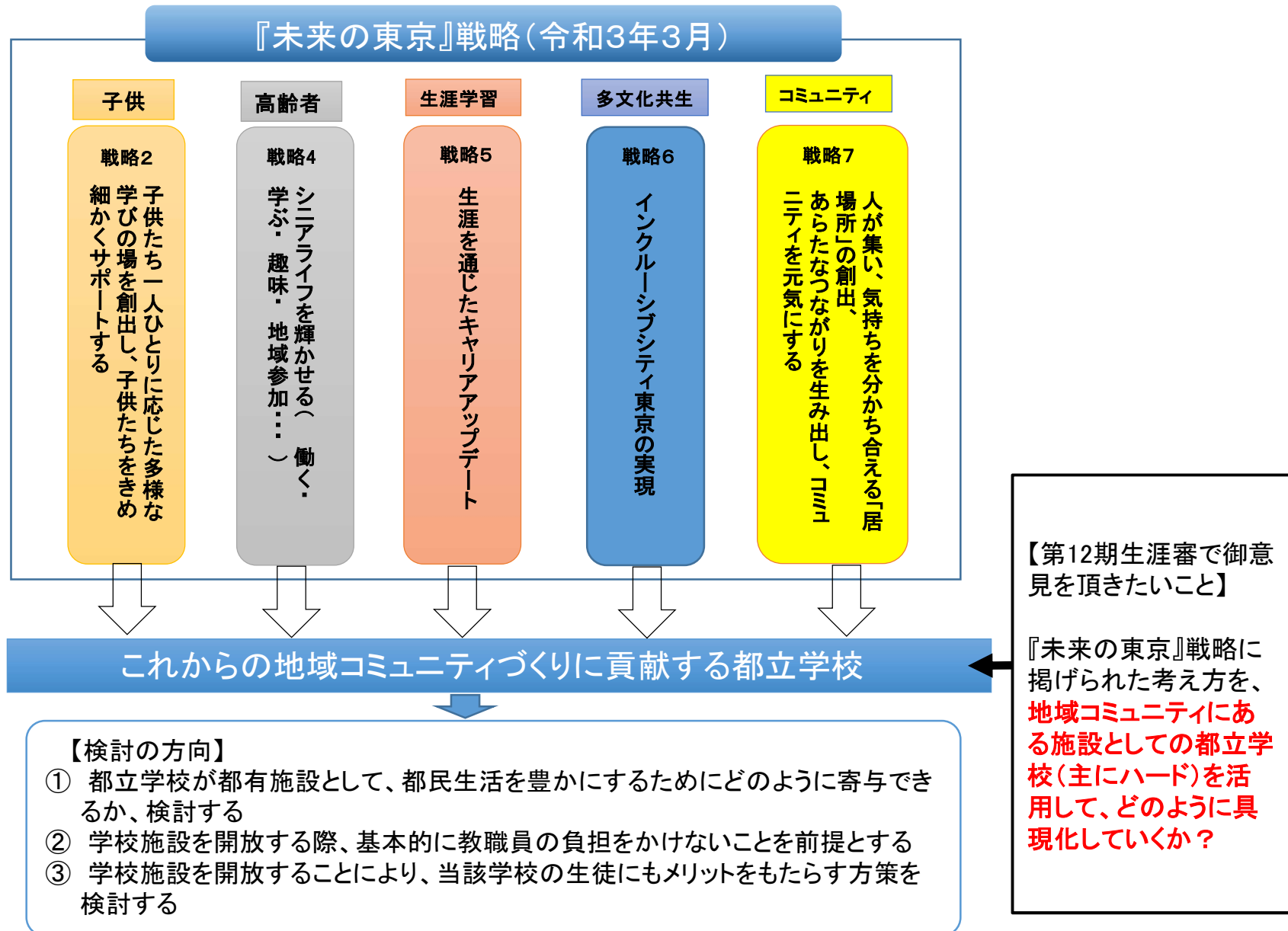
これからの地域コミュニティづくりにおける
都立学校のあり方に関する意見交換

3 今後の予定

本日御審議いただきたいこと

「これからの地域コミュニティづくりにおける
都立学校の在り方」に関する検討枠組み

第2回 全体会での審議事項について



審議の前提条件の確認

これまでの学校・教員中心で実施してきた都立学校開放事業の在り方を抜本的に見直し、都民(青少年・成人・高齢者、障害のある方々等を含む)の生涯にわたる「学び」を支援する仕組みに転換していきたい。

【審議の前提】

「学校における働き方改革推進プラン」(平成30年2月)

(目的) 教員一人一人の心身の健康保持の実現と誇りとやりがいを持って業務に従事できる環境を整備することにより、学校教育の質の維持向上を図る。

〈取組の方向性〉

- (1) 在校時間の適切な把握と意識改革の推進
- (2) 教員業務の見直しと業務改革の推進
- (3) 学校を支える人員体制の確保
- (4) 部活動の負担を軽減
- (5) ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた環境整備

学校開放事業の在り方の抜本見直しが急務

〈見直しの視点〉

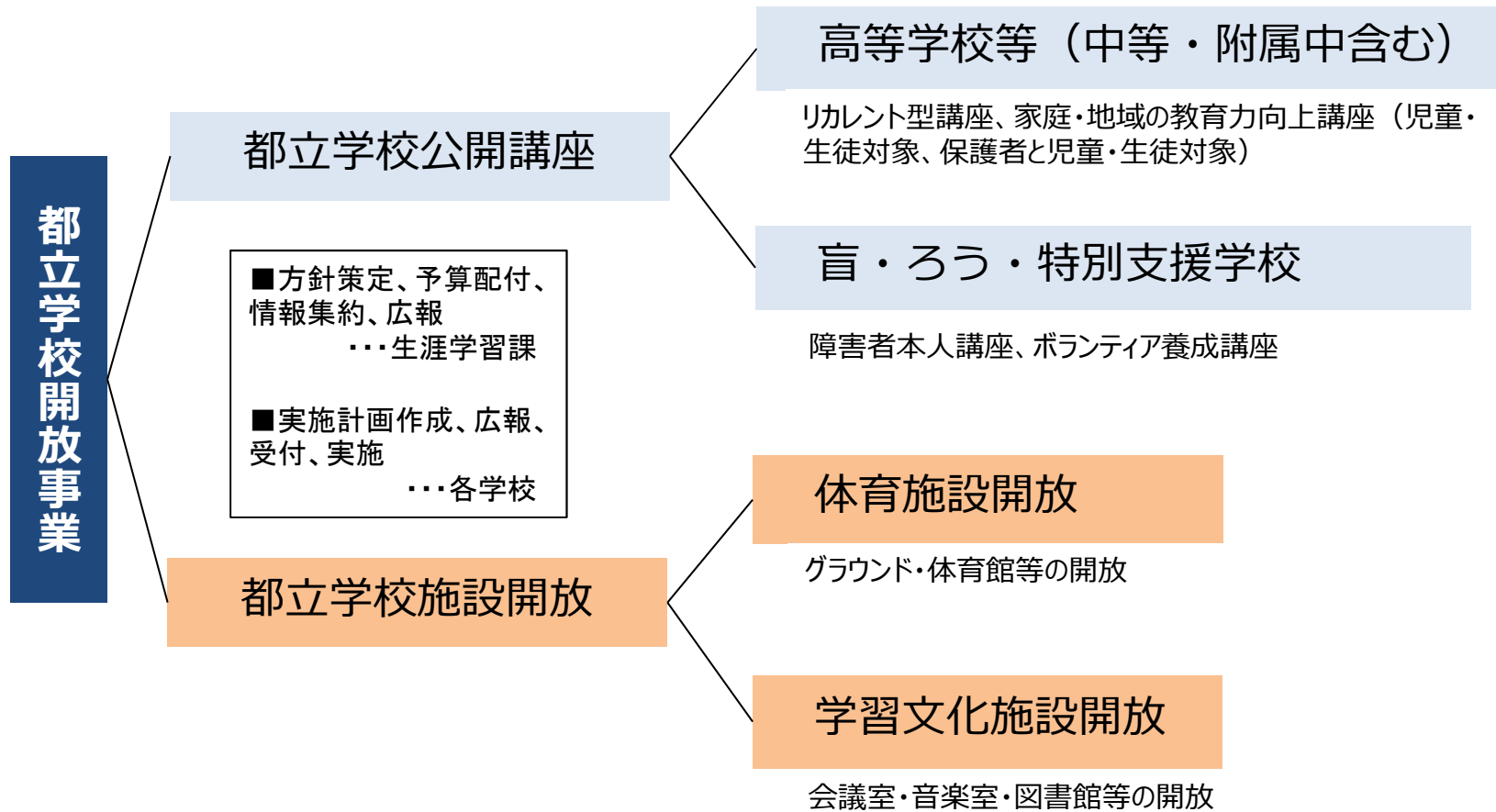
- ① 教員の関与が前提の公開講座は抜本的に見直す
- ② 学校施設開放は、土日、夜間等に教員が対応しなくてよい仕組みづくりが不可欠

〈新しい都立学校開放事業の考え方〉

『未来の東京』戦略を踏まえる

- 1) 都立学校は、地域コミュニティづくりにおいて不可欠な都有的社会資源である。
- 2) 少子高齢社会化、高度情報化、内なる国際化、急激な社会構造の変化に伴う多様なニーズに応えるための学びの機会を提供する場としての都立学校
- 3) 地域住民等に開放することで、学校にとってもインセンティブが得られるような学校開放の在り方

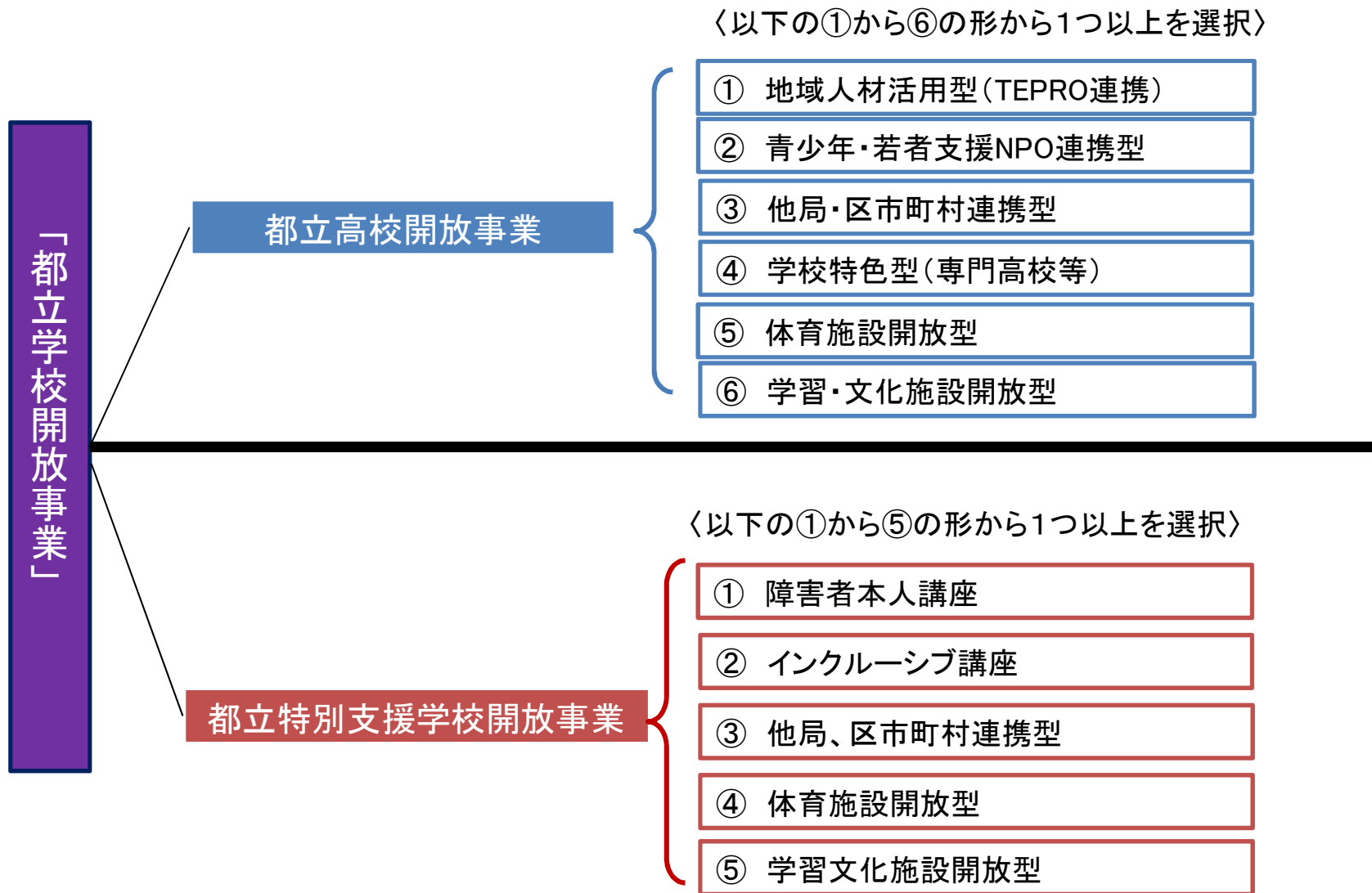
都立学校開故事業の体系



都立特別支援学校活用促進事業

(リビ°ック・パ°リビ°ック準備局)

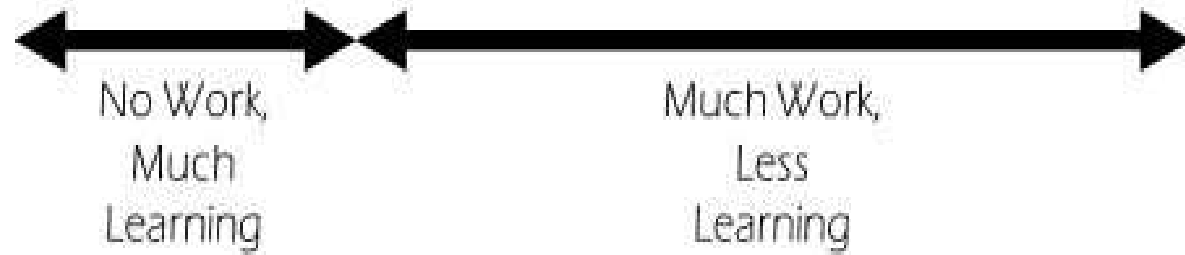
新しい学校開放の事業体系(案)



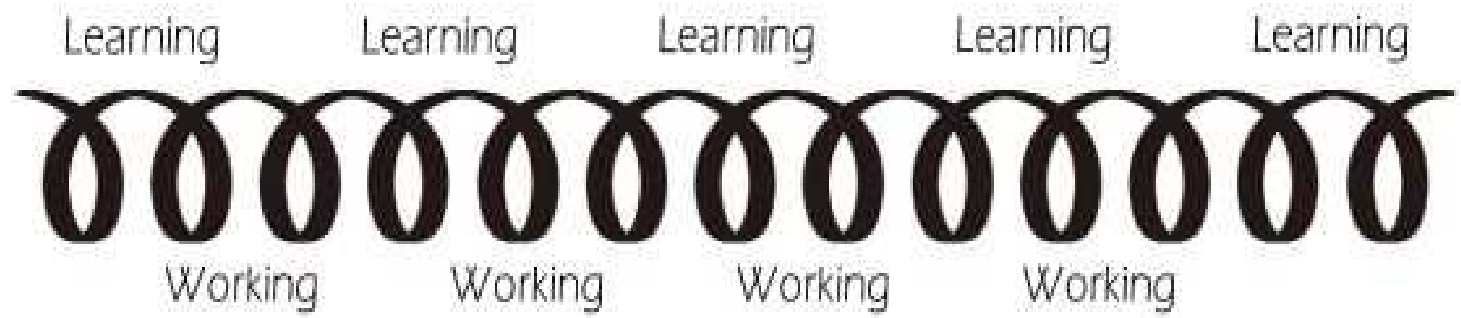
※なお、施設開放に当たっては、施設の管理業務はアウトソーシングすることで学校・教員の負担を一切かけない方式を検討する。

人生100年時代の学び リカレント型の学びの必要性

LifeLong Learning



↓ ライフステージという概念自体が無意味化



(出典) 東京学芸大学教育インキュベーションセンター 金子教授作成資料

(参考) 新しい時代の学びを実現する空間としての学校施設

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例 (未来思考の視点を含む)

Schools for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として創造する子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿



学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿



製作・編集のためスタジオ、情報交換や休憩ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿



子供たちの居場所となる小空間・ベンチ等の配置や、木材を活用して温かみと潤いのあるリビング空間としていく姿



断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、大人数での多様な活動も展開できる大空間として活用していく姿



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

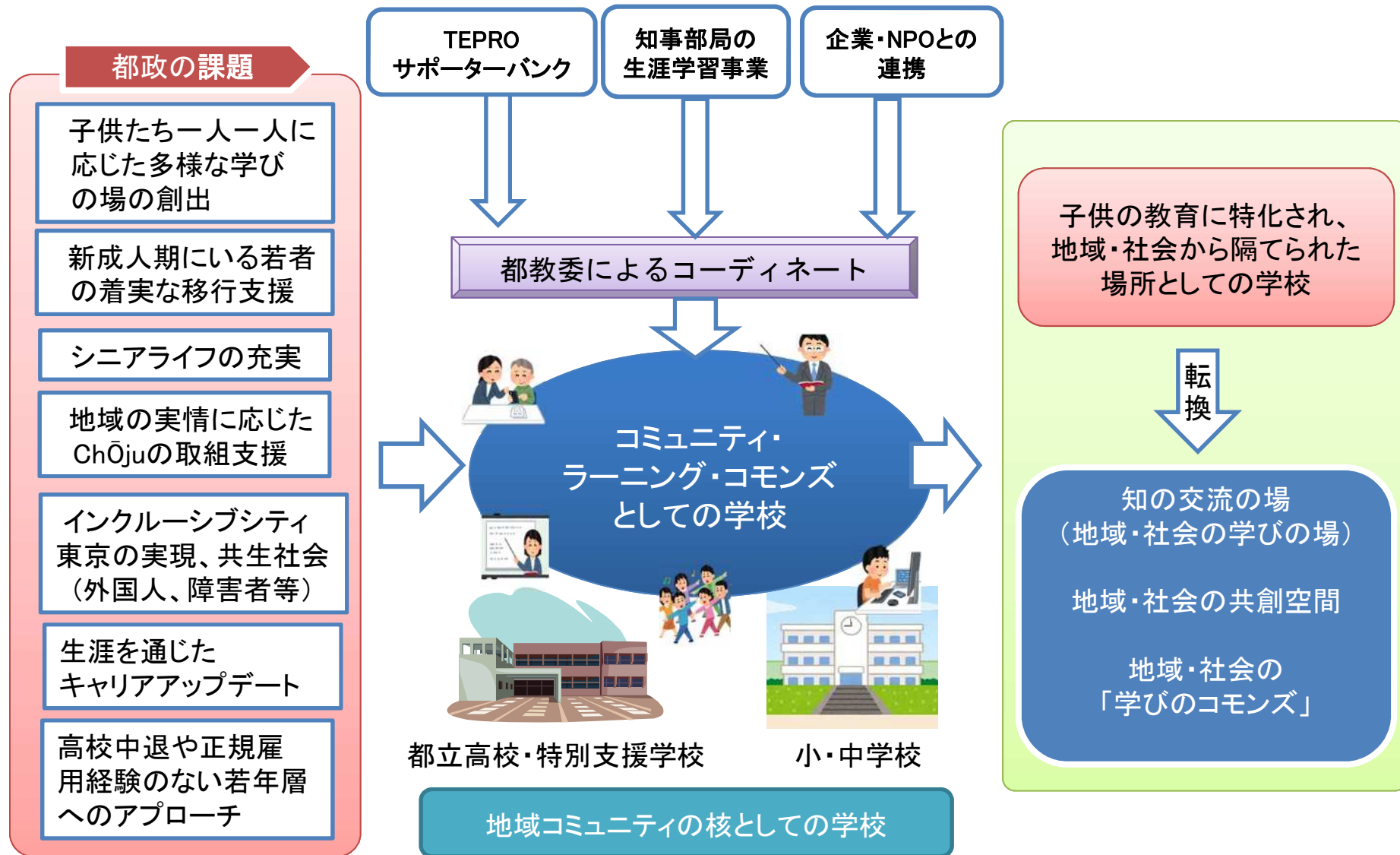


他の公共施設(図書館等)との複合化・共有化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿

文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」中間報告、令和3年8月

「コミュニティ・ラーニング・コモンズ」としての学校

地域の拠点である学校を、子供の成長や地域住民の活動を支える社会の重要なインフラとして位置づけ、『未来の東京』戦略に基づき、多様な都政課題解決に向けた取組を展開していく。



今後の都立学校開放の考え方と事業展開案

〈基本的考え方〉

都民の共有財産である都立学校施設を都の政策課題を解決する場として提供するとともに、都民生活に寄与する事業・講座を多様な社会資源との連携・協働型で展開していく。

〈政策課題〉「『未来の東京』戦略 version up 2022」

◇東京リカレント(仮称)の一翼を担う

・都民の生涯教育をサポートする

◇インクルーシブシティ東京の実現

(学びの場でのインクルーシブを推進)

・外国人支援 ・障害者支援 等

◇デジタル等を活用した高齢者のQOLの向上

(区市町村の取組を支援、補完)

・高齢者の希望に応じた社会参画を一層の促進

・高齢者のデジタルデバイドの解消

◇人々のつながりや支え合いの輪を広げ、Communityを活性化する

◇スポーツのつながりを、まちの至るところに拡げる

〈今後展開する事業例〉

- 1) 他局、区市町村と連携した地域住民向け講座
- 2) 市民を講師にした生涯学習講座の実施
- 3) 学校施設の一部をコワーキングスペースとして住民に提供
- 4) 若者NPO等に学校施設を提供し、高校生と社会体験活動を実施
- 5) 企業やNPO等と連携し、インクルーシブな学びの機会の創出

地域コミュニティの活動の拠点として、学びの「共創空間」としての都立学校